

# 県立赤城公園の活性化に向けた基本構想（案）

令和4年（2022年）

はじめに

赤城山のレジリエンス・デザイン。  
自然のなかで、一人ひとりのウェルビーイングを高める  
新しいネイバーフッドとの出会いを創出します。

赤城山に「行ってみたい」「友人を誘ってまた訪れたい」という思いをいかに醸成し、継続させていくか。

コミュニティを育み、赤城山の機運と熱量をいかに高め持続させていくか。

その鍵は“住む人”であり、“働く人”であり、“訪れる人”たち、そして、赤城山を愛する人々“ネイバーフッド”たちです。

多様な人々の交流が、あらたな変化を赤城山に生み出していくのです。

——ウェルビーイング、生きがい、サステイナブル。

まちの魅力を持続的に高めていくことだけでなく、市民からでも事業者からでも地域からでも、

「赤城山もある前橋って素敵」と思われるような強いコミュニティづくりを目指して、

この不確かな社会の中で、持続する地域マグネットを提案します。

## トピックス

# 日本の未来課題と新しい時代に求められる“Well-Being”への新たな指標。

Beyond 2060。  
変化が予測できる日本の未来課題

### 将来推計人口でみる 2060年の日本

内閣府 令和3年(2021)版高齢社会白書より

ア 8,700万人を割り込む総人口

イ 2.6人に1人が65歳以上、3.9人に1人が75歳以上

ウ 年少人口、出生数とも現在の半分以下に、  
生産年齢人口は4,529万人に

エ 現役世代1.3人で1人の高齢者を支える社会の到来

オ 男性84.95歳、女性91.35歳まで生きられる

“心身ともに良好な状態”を意味する概念“Well-Being”  
その状態を維持し向上するための指標が、世界で注目されるように



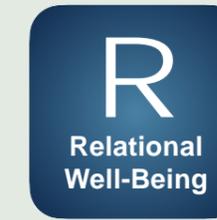
意義ある人生を送り  
今この瞬間をマインド  
フルに楽しんでいる



身体を大切にしカラダ  
とところのつながりを  
活かしている



深い学びに主体的  
に関わり経験を拡  
げている



自分自身と他人と  
建設的な関係性を  
育んでいる



すべての感情を感じ  
レジリエンスと楽観的  
視点を得ている



タル・ベン・シャハー  
心理学博士、教師、著述家

近年グローバルアジェンダとして位置付けられる“Well-Being”意識の高まり。  
2030年以降にむけて、新しい資本主義のあり方が考察されている



飛鳥新社 下村博文(著)  
「GDW興国論 幸福度世界一の国へ」

GDW - 日本経済新聞  
<https://well-being.nikkei.com/about>

## 与件

都市間格差の解消と地域活性化を目指す「デジタル田園都市国家構想」。  
前橋スーパーシティとの連動を果たし、地域レジリエンスモデルとして構築。



デジタル庁 デジタル田園都市国家構想より



前橋市スーパーシティ型国家戦略特別区域の指定に関する提案書より

デザインシティ前橋市街、健康促進敷島公園、自然共生赤城山。  
好条件な環境や状況に既存基盤を組み合わし、新たな価値を創造。  
潜在ポテンシャルを活かし、  
差別化が容易かつ発信力の高い全体構想を目指します。

レジリエンス：困難や脅威に直面している状況に対して、「うまく適応できる能力」  
「うまく適応していく過程」「適応した結果」を意味する言葉

## 分析：統計からみる利用状況

自然観光資源はあるものの、行動消費や中長期滞在が減少傾向にあります。

### 統計値からの分析

■ 山頂エリア宿泊客数 (2019年度) 観光庁 赤城自然塾 DMO形成・確立計画より

約14万人

■ 旅行消費額 (2020年度) 観光庁 赤城自然塾DMO形成・確立計画より

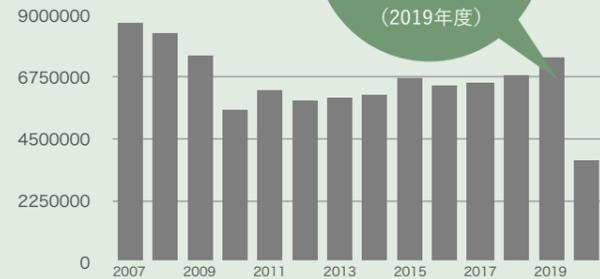
約12億円

前橋市の観光入込客数は群馬県でトップクラスであるにもかかわらず、旅行消費額＝延べ宿泊者数が少ないことが課題

■ 町別人口 (2021年11月30日現在) 町別住民基本台帳人口表より

群馬県前橋市 336世帯 643人  
富士見町赤城山

■ 前橋市観光客数



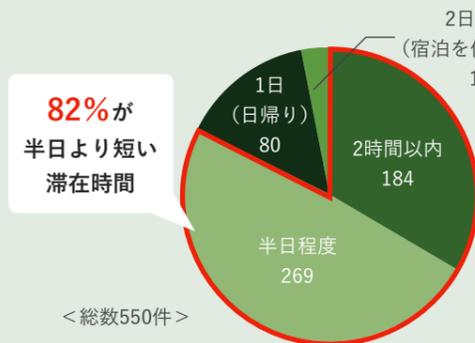
前橋市入込客推移 | 群馬県統計情報提供システムより

前橋市は県立赤城公園などの自然観光資源を要するが、観光客の減少傾向が続く。赤城エリアでは日帰り観光が中心となり、旅行消費額に繋がる宿泊客が少ない。今後も人口減少と共に更なる観光客の減少が見込まれる

### 赤城山(県立赤城公園)の活性化に関するアンケート分析 (結果抜粋)

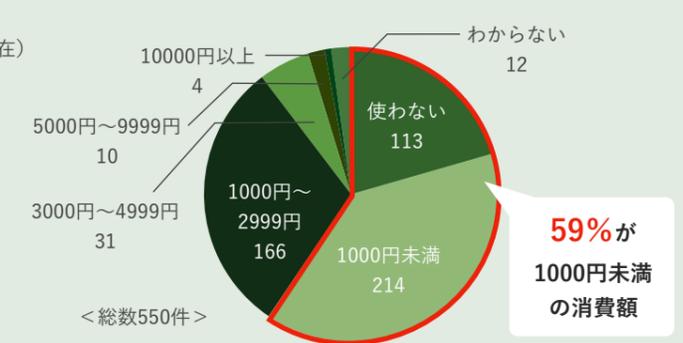
実施日：2021年12月1日～12月24日  
実施方法：一般公開リンクによるウェブフォーム形式アンケート  
回答数：601件

1回あたりの滞在時間



<総数550件>

滞在中の消費額 (一人当たり)

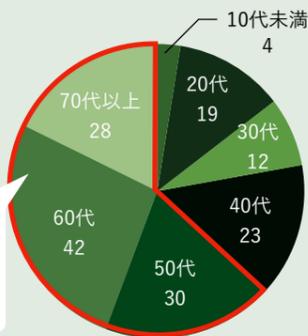


<総数550件>

### オープンハウス調査結果分析 (結果抜粋)

実施日：2021年10月21日～24日  
実施場所：赤城公園ビジターセンター前  
回答数：140件

年齢



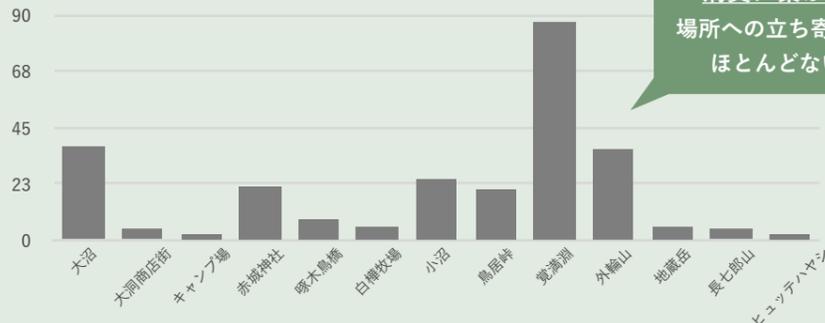
63%が50代以上の年齢層

来訪の目的



登山や自然観察が大部分の目的を占める

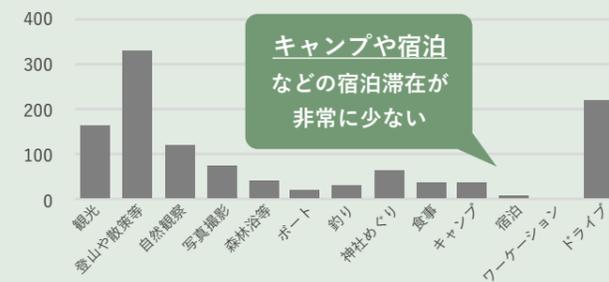
今日はどこへ行くか



消費に繋がる場所への立ち寄りがほとんどない

利用実態に近い調査結果季節や天候条件も影響していると考えられるが、利用者のほとんどが登山や自然観察を目的としており、年齢層は50代以上が半数を超え、利用者層の偏りが見られた。立ち寄りに関する質問でも、自然観光以外に消費に繋がる場所がほとんど上がらず、課題感がうかがえる結果となった。

(赤城公園へ) 来訪する主な目的

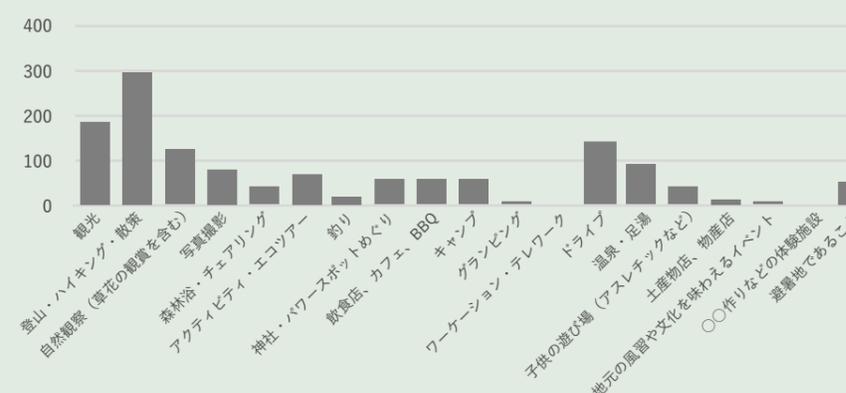


キャンプや宿泊などの宿泊滞在が非常に少ない

登山やドライブが過半数の来訪目的

(上グラフについて) 直接的な数値としても、宿泊滞在が行われていないことや、日帰り利用者がほとんど消費を行わずに立ち去ってしまっている実情が表れている。

(好きな「自然を体験できる場所」へ) 来訪する主な目的



(来訪目的について) 赤城公園と好きな「自然を体験できる場所」との来訪目的の比較では、近しい目的の分布が見られると同時に、一部アクティビティ・飲食・キャンプなどで赤城公園以外の数値が高く、目的として求められる傾向が見える。温泉や子供の遊び場など、赤城公園で目的にできていない項目も上がり、新たな需要としても考えられる。

## 分析：現状公園施設について

# 公園内各施設の可能性と課題感

### 県立赤城公園の概要

赤城公園は、赤城山山頂エリアの1,290ヘクタールという広大敷地を持ち、深い森や大小の湖沼・湿原を抱え多様な動植物が生息しており、季節に応じた多彩な自然環境を有している。施設としては、南北3本のアクセス路を持ち、大沼周辺に総合観光案内所・ビジターセンター・キャンプ場やテニスコートなど施設が整備して、登山・散策や植生観察、大沼でのワカサギ釣りやレイクアクティビティ等、自然を活かした過ごし方を提供している。



#### 赤城公園キャンプ場

大沼湖畔の立地が魅力的な施設ではあるが、無人管理の不便さやルールが守られていない現実、またオートキャンプに対応していない設備面など、有効に活用されていない現状。



#### 文教地区・厚生施設団地エリア

大沼湖畔に近い魅力的なエリアで、文教地区指定されているエリアと厚生施設団地エリアに分かれる。近年入居されていない敷地や廃屋が目立ってきており、立地を活用しきれない印象が強い。



#### 赤城山総合観光案内所

公園の総合案内所として、地域に関する展示が魅力的に行われており、白樺牧場への景観も良好、飲食提供も有。立地が大沼から離れているため、他施設と連動しにくい。冬季閉鎖。



#### 赤城少年自然の家

少年自然の家として、林間学校の受け入れイベント利用等、主に団体に向け周辺の自然を活かした環境を提供。体育館兼艇庫も持ち、地域でも活用されている。一方で一般利用は行われにくい。



#### 小沼

長七郎山の火山活動でできた火口湖。春にはツツジなど、秋は紅葉と自然に囲われた魅力的なエリア。地藏岳の登山口としても使用される。設備としてはバイオトイレのみ設置。



#### 赤城公園ビジターセンター

通年オープンしており、覚満淵や各山への登山口も近いことから、出発拠点となる施設。一方で展示室など機能しておらず、トイレのみの利用が目立っている。暗い印象を受ける利用の声も見られる。



#### 赤城公園テニスコート

テニス用時間貸のコートだが、近年需要が減少してしまったため閉鎖中。覚満淵とビジターセンターをつなぐ立地で雰囲気にも影響するため、積極的な活用方法が求められる施設。



#### 大洞商店街

大沼湖畔で、赤城神社、覚満淵や黒檜山に近接する一等地に位置し、山頂エリアの賑わい中心地である一方、年数が経過した施設も多くなっており「印象が暗い」というアンケート結果も見られた。景観面も含め、活性化に向けての検討も求められる。



#### 鳥居峠

関東平野や赤城山頂エリアを望める魅力的な立地。旧山頂駅はレストランとお土産屋として活用されている。アクセスのよさと展望を活かして赤城の魅力をより発信していける場所。



#### 覚満淵

周囲約1kmの小さな湿原で、湿生植物と高山植物の宝庫。ビジターセンターから近く、1周する木道も整備もされていることから多くの方が自然観察に訪れる景勝地兼目的地。

⇒各施設の活用度を高めてエリアの活性化を

## 分析：地域住民の想いと期待について

# 地域として感じている魅力と伝えていきたいことを整理

### 第1回あかぎ会議

#### 会議概要

本事業やスローシティ構想についての説明を実施した後、赤城公園の魅力について地域住民の皆さまとワークショップを実施

日付：2021年11月8日 14：30～17：50  
 場所：ヒュッテハヤシカフェ  
 参加：地元参加27名  
 群馬県庁（主催）、前橋市、コーディネーター茂木氏、  
 トークグラフィッカー山口氏、技研コンサル(株)、  
 (株)スノーピーク地方創生コンサルティング

#### ワークショップ内容

- ・テーマを変えながら意見を出し合う
- ・グラフィック化して魅力と課題を整理

#### テーマ

- ・私が感じている“いま”の赤城公園の魅力
- ・私が利用者から聞いている赤城公園の魅力



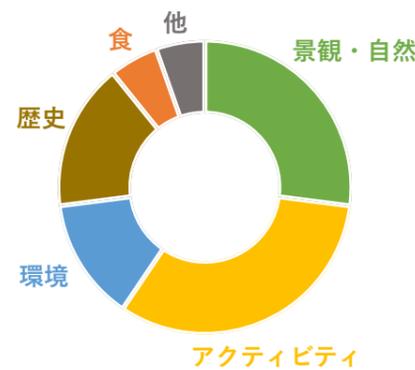
ワークショップ実施風景



ワークショップ結果（山口氏イラスト）

#### ■赤城公園の魅力

- ・体育館が使える
- ・無料で楽しめる
- ・ワカサギ料理
- ・山菜ラーメンが普通にうまい
- ・赤城山の成り立ちや歴史背景
- ・むかどと蛇の伝説
- ・赤城神社の伝説
- ・文化人との縁（絵・詩・小説）
- ・文豪の愛した青木旅館
- ・作品の舞台（詩・小説・漫画）
- ・涼しさ
- ・高地トレーニングに最適
- ・静かさ
- ・ゆったり過ごせる（テレワーク、チェアリング）
- ・しずかな時間帯の湖畔のきれいさ



- ・大沼の鏡面反射
- ・鳥居峠からの雲海や朝日
- ・展望（スカイツリーや富士山）
- ・星空（天の川がよく見える）
- ・アイスパブル、気嵐、ダイヤモンドダスト
- ・覚満淵
- ・写真家の集まる景色やフォトスポット
- ・四季を感じる（草紅葉、つつじ、紅葉、霧氷）
- ・変わらない自然の魅力
- ・花の種類の多さ
- ・ハイジのフランコ
- ・木登り体験
- ・滝めぐり、秘境ツアー
- ・わかさぎ釣り（難易度高め）
- ・氷結湖面を渡る
- ・スキー、スノーシュー
- ・湖畔でBBQ
- ・カヌー・カヤック
- ・スキー場で子供を遊ばせられる
- ・豊富な登山ルート
- ・ドライブ
- ・湖畔回りのランニング

第1回あかぎ会議ワークショップ結果概要

⇒ 赤城公園の魅力や特色を整理

### 第2回あかぎ会議

#### 会議概要

第1回会議結果を踏まえた構想進捗の説明とテントサウナ体験を実施後、ワークショップにて滞在に関する提案方法を検討

日付：2021年12月20日 12：30～15：30  
 場所：前橋市赤城自然少年の家  
 参加：地元参加27名  
 群馬県庁（主催）、前橋市、  
 (株)スノーピーク地方創生コンサルティング

#### ワークショップ内容

- ・設定に合わせて、各チームごとに体験してもらいたいことを滞在プラン化

#### 課題設定

- ・滞在期間：2泊3日以上
- ・季節：春夏秋冬
- ・ペルソナ：40代夫婦+小学生2名 / 20代カップル



テントサウナ体験実施風景



ワークショップ実施風景

#### 春

40代夫婦+小学生2名

大人も子供も体験！  
わくドキ春の赤城山  
プラン

#### POINT

- ・E-Bikeで巡るつつじや新緑の匂スポット
- ・鳥居峠でご来光体感
- ・地藏岳でナイスビューを展望
- ・大沼でカヤック体験

#### 夏

40代夫婦+小学生2名

五感で体験！  
専用コンシェルジュ監修  
赤城山グランピング

#### POINT

- ・インストラクター指導によるクワガタ取り
- ・涼しい高地気候の中で女子ヨガ体験
- ・シェフ提供地産地消BBQ
- ・親子で分かれて過ごすワーケーション滞在

#### 秋

20代カップル

秋の絶景を満喫、  
二人の時間を楽しむ  
プロポーズ大作戦

#### POINT

- ・白樺牧場で紅葉狩り絶景ツアー
- ・大沼湖畔でチェアリング
- ・BBQホールでプライベートディナー&夜景バー
- ・流星群を眺めるナイトハイク

#### 冬

20代カップル

2泊3日首都圏発  
天空の“ときめく”  
グランピングキャンプ

#### POINT

- ・ダイヤモンドダスト体感
- ・湖上でワカサギ釣り&コーヒープレーク
- ・覚満淵で動物の足跡を探すスノーシュー体験
- ・日本一小さいスキー場でそり体験

第2回あかぎ会議ワークショップ結果概要

⇒ 滞在時間延長のための具体案を検討

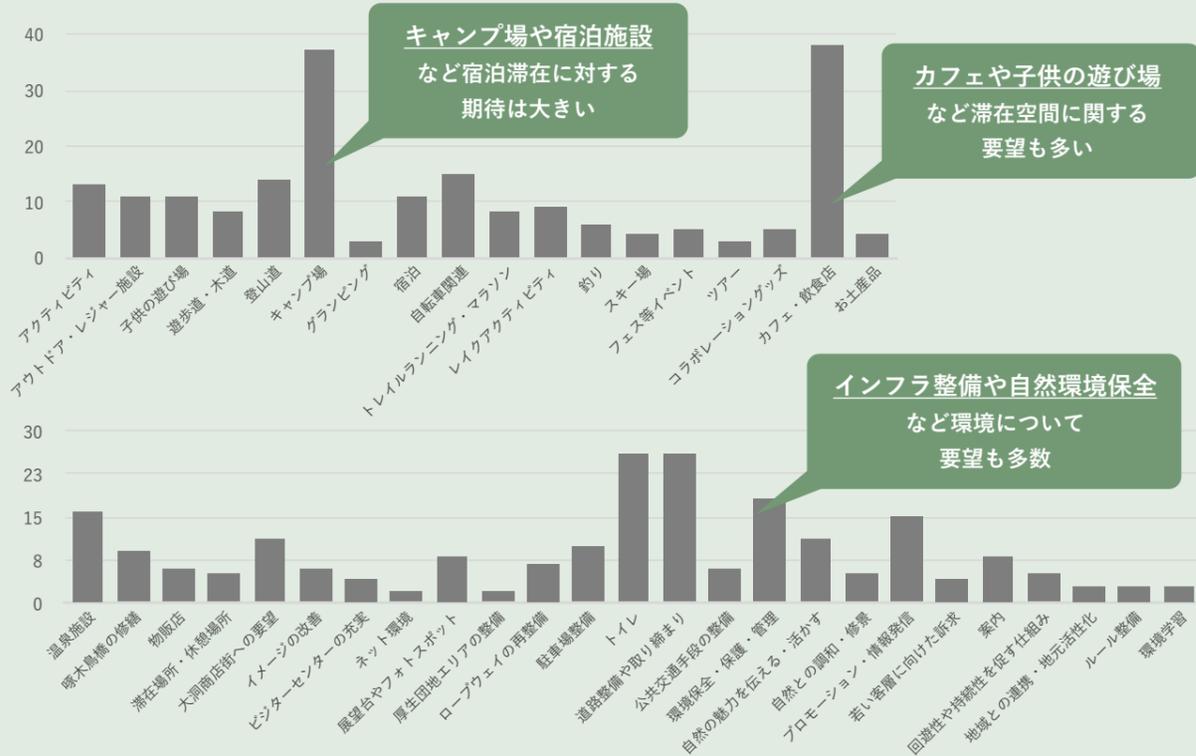
## 整理：求められる機能について

# 調査やワークショップから整理する公園に求められる機能

### 調査からみる期待される機能

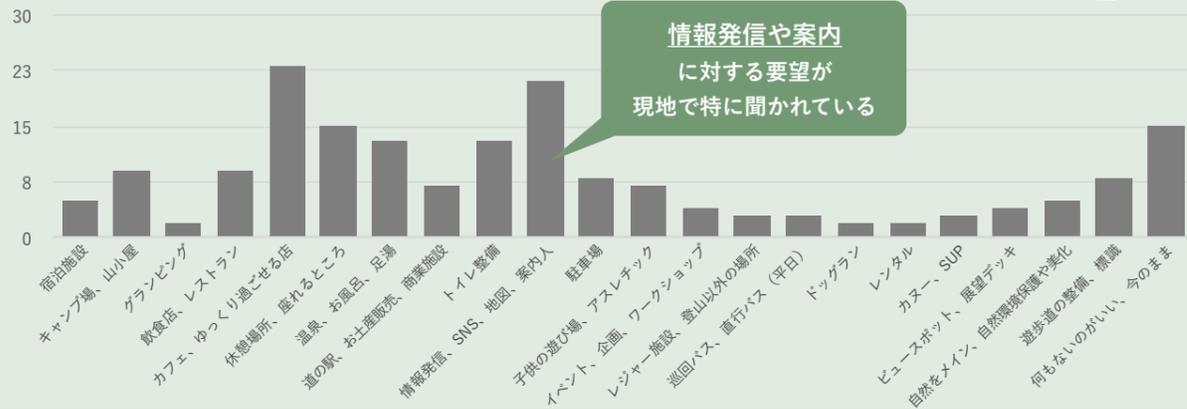
【問5-9. 赤城山（県立赤城公園）の活性化にあたり希望することはありますか】

赤城山（県立赤城公園）の活性化に関するアンケート結果より



【Q：滞在時間を増やすため、どのような機能・施設があったらいいと思うか】

※オープンハウス調査結果より



### 赤城公園の機能系統図による機能整理と分析

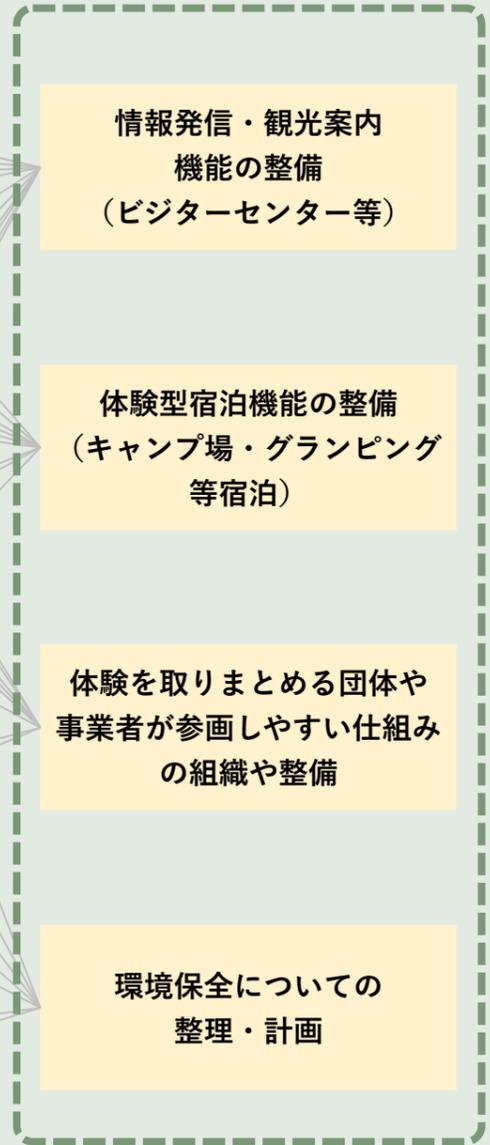
調査結果を踏まえて、赤城公園の機能系統図を整理し、求められる機能を案とともに整理する。

別添資料 令和3年度赤城公園の機能系統図整理より

#### 赤城公園の機能整理

- 非日常を与える
- きれいな光景を見せる
- アクティビティを増やす
- 情報を広げる
- イメージを明るくする
- 新たな魅力をつくる
- 学びの場を創出する
- 健康を促進する
- 回遊を促す
- 宿泊客を増やす
- 滞在空間を増やす
- 快適な環境を増やす
- 参画しやすい環境をつくる
- 雇用を生み出す
- 労働環境を整える
- 重点保全エリアを指定する
- EV環境を整える

#### 求められる機能



## 整理：アウトドア滞在の需要について

# 近年需要の高まる屋外滞在を活かして、地域の循環を生み出す

### 年々オートキャンプ人口は増加傾向、特に関東圏ではキャンプ場不足

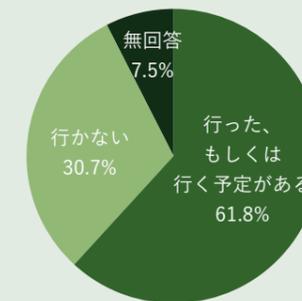
身近な感覚としてはキャンプブーム、社会的な影響でいえばSDGsや環境配慮への要請から高まる屋外での過ごし方への意識などの効果もあり、実際にオートキャンプに参加する人口も年々増加してきています。それに伴い全国のキャンプ場稼働率も高まってきており、特に関東圏では週末の予約が取れないなど需要が非常に高まってきています。



### キャンプ宿泊に伴う周辺地域への波及効果

キャンプ場整備の一つのメリットとして、周辺への波及効果が挙げられます。統計によると、約6割の方はキャンプ宿泊の前後に施設周辺で観光を行っていることが見て取れます。また、キャンプは宿泊を伴う体験でもあるので消費単価も高まり、周辺地域への経済的な効果も見込めます。提供段階から、周辺地域での体験を伴う宿泊プランとして売り出していく事も、十分に需要が見込めると考えます。

#### 周辺の観光地等へ行ったか (2017年調査)



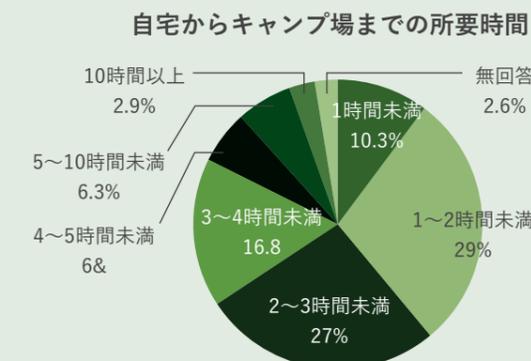
#### キャンプ場周辺での観光等の内容 (2017年調査)



### 東京から約100km、首都圏から適度な距離感



オートキャンプ場の採算ラインの立地条件は100万人都市圏から車で2時間圏内とされる中、首都圏からの集客を望める好立地。一方で、同県内に限らず同距離圏内には多数のキャンプ場があるため差別化が一つの課題。



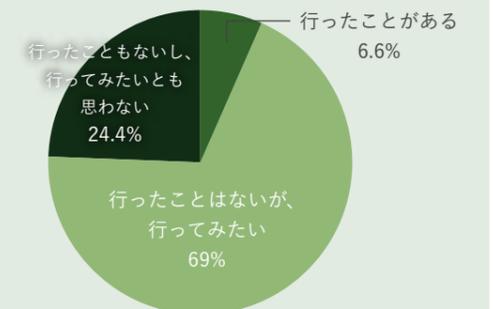
### 高まるグランピングやアウトドア体験を伴う宿泊の需要

近年、自らはキャンプを行わないけれども、アウトドア体験をしてみたいという方が多くみられます。下記2019年の調査では45%の方がグランピングを認識しており、うち75%が実際に「行ったことがある」もしくは「行ってみたい」という回答をしています。その国内市場規模も、(一社)全国グランピング協会によれば2022年1月時点で800~900億程度と推定され、年々高まっています。今回の計画では、より地域の魅力を高めるとともに、上記客層にリーチするための機能として期待されます。



#### グランピングに行った経験

(n=455: グランピング認識者)



## 考察

IkigaiやWell-Beingなど、これからの共感価値を取り込み赤城山・大沼小沼のエリアポテンシャルをアピール、話題性や滞在性を引き上げていきます。



#Well-Being

より良い日常を探求する

バランスを整え、

心身ともに



#ikigai

日本の哲学

価値や意味をもたらす

生きること



#Green&Relax

向上させる

知的生産性を

自然と共生することで

## 取り入れるべき新しい価値観

環境負荷を最低限にとどめた開発を行うことで、

“まちの景色を変える、感度の高い人々が集う”施設を構築します。

構想ビジョン

# Akagi Well-Ground

赤城ウェルグラウンド

赤城山の「自然」をハブにしたまちづくり拠点。

特別なエクスペリエンスを醸成することで、話題性・満足性を向上させ、  
幅広い世代が集まり、地域の魅力を高める場を創造していきます。

#nature #authentic #community #neighborhood #workation #wellbeing  
#lifestyle #mindfulness #camp #glamping #sup #hike #cafe

## 構想マップ

サステナビリティ × ウェルビーイング

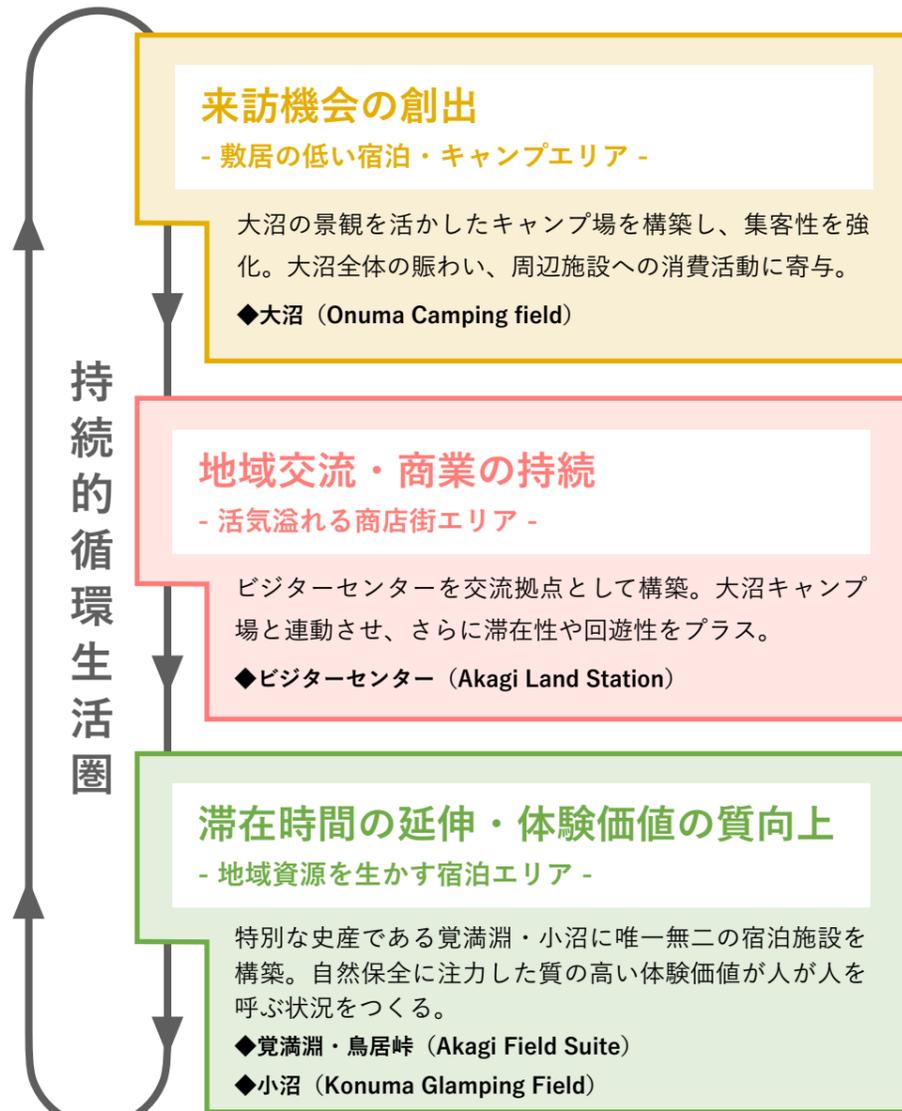
# 持続的循環生活圏の創造

新たな「場」の相互作用によって、山頂エリア全体に回遊性が生み出され、滞留時間が延びることで、人々の消費活動に寄与。

地域の活性化と新たな雇用や就労機会を生み出していきます。

自然と人が有機的に交わり変化し続け、「循環型自律経済基盤化」させるだけでなく、地域市民、現地事業者、来域者の「三方善し」を構築。

豊かな自然を保全しながら、地域の持続的な関係や循環を最大化させます。



## 構想スケッチ



# Akagi Well-Ground

赤城山エリア全体を巻き込み、  
にぎわい・滞在性の創出に寄与していきます。

## 施策案 ①：大沼

赤城山の山頂エリアで、  
自然に囲まれ大沼に面した  
特別な湖畔キャンプサイト。

# Onuma Camping field

大沼キャンピングフィールド

赤城山・大沼のすばらしさを感じられる特別な湖畔  
サイトを用意。野遊び体験を通じて、山頂エリア北  
西部の集客拠点を構築。リピーターの多い安心感の  
ある場所に。



県立赤城公園キャンプ場



Akagi Well-Ground



## 施策案 ②：ビジターセンター

「買う・遊ぶ・食べる・泊まる」が揃う  
赤城山エリアのアウトサイドベース。  
地域店舗や住民を巻き込む拠点施設。

# Akagi Land Station

赤城ランドステーション

赤城山のコミュニティ基盤となる拠点施設。さまざまなアクティビティ、イベントを通じて、大沼小沼にとどまらず、赤城山エリア全体の回遊性に寄与。観光案内機能も内包し、強い発信性・集客性を約束します。



県立赤城公園ビジターセンター



Akagi Well-Ground



### 施策案 ③：覚満淵・鳥居峠

眼下に覚満淵を見下ろす  
離れで過ごす特別なひととき。  
自然に溶け込むスタイル・シェッド。

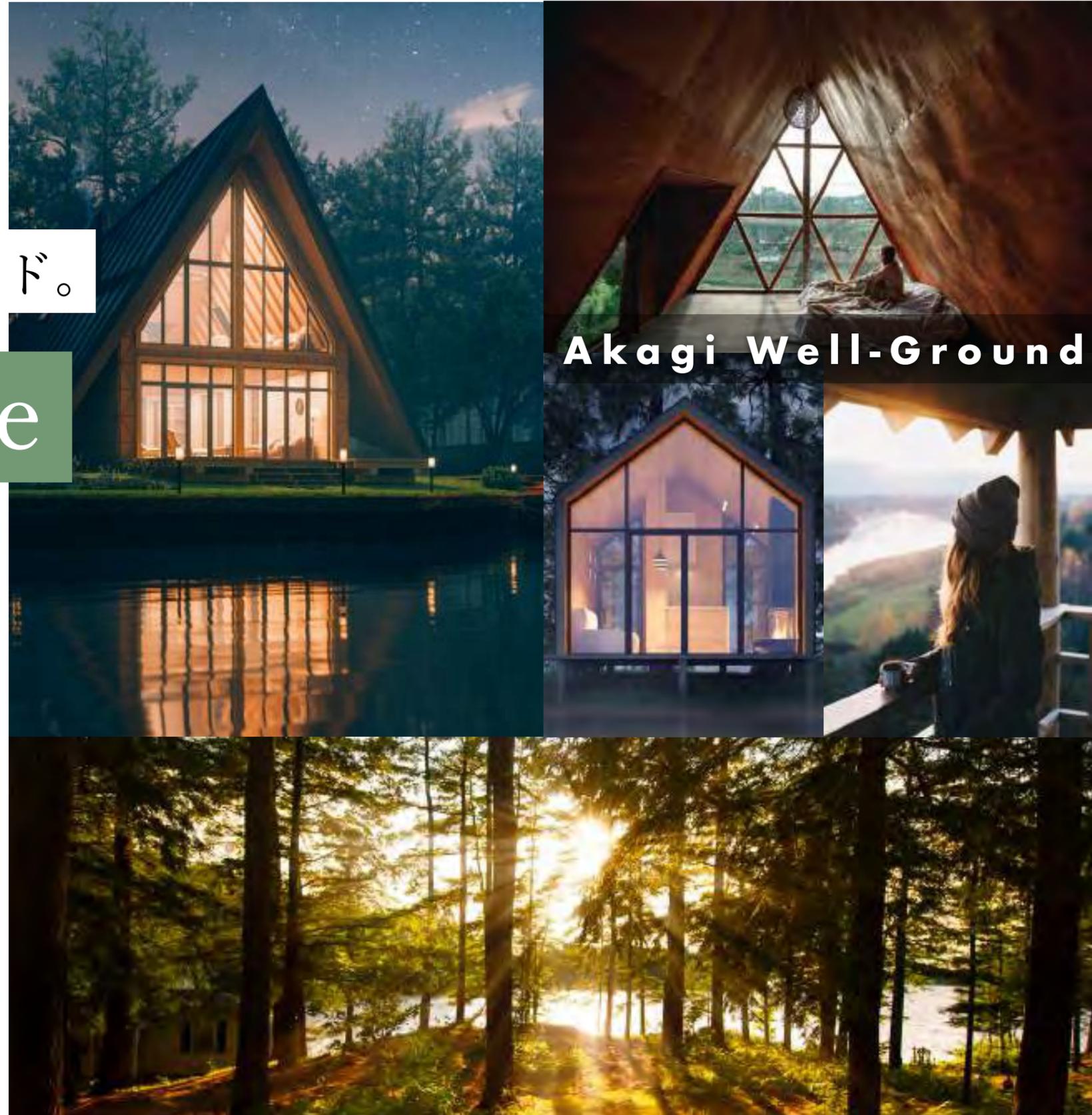
# Akagi Field Suite

赤城フィールドスイート

唯一無二の大自然の中に、極上のプライベート空間をしつらえ、赤城山・覚満淵のすばらしさを感じられる特別なエクスペリエンスを用意。最大限の環境配慮を施した施設で過ごす贅沢なアウトドア体験。



覚満淵・鳥居峠



## 施策案 ④：小沼

ありのままの自然に住まう。  
赤城山の山頂エリアで、  
特別なレイクサイドグランピング。

# Konuma Glamping Field

小沼グランピングフィールド

創造的発見ができる森のオアシス。市街地の喧騒から離れ、湖畔に流れる自分だけの時間を十分に堪能できるグランピングサイト。環境に配慮したフィールドにはキャンプサイトも併設。



小沼



既存の県立キャンプ場を拡張した、大規模なキャンプサイト。  
宿泊・温泉施設や飲食店などと連携し、エリア全体の年間の活気を促します。



赤城山の広域的サービス提供の中核的な場所として位置づけであり、自然エネルギーや資材を再利用することで環境的配慮を意識したデザインに。



覚満淵の四季折々美しい自然の風景を楽しめる、特別な宿泊施設。  
自然環境になるべく影響がないよう、周囲の自然に配慮したデザインに。



自然豊かな小沼を楽しむための小規模なキャンプサイト。  
既存の駐車場を利用し、東側にグランピングサイト、西側にテントサイトを計画。



## 地域連携 ①

# 周遊滞在の企画提案と情報発信。

赤城山観光案内所と赤城ビジターセンターでの滞在空間・情報発信の機能を再整備。

地域に密着している方々だからこそわかる体験をプラン化、

季節・時間・天候などによって変化する周辺状況を踏まえた、エリアでの過ごし方を提案します。



### エリアでの周遊を促すプラットフォーム整備

施設管理を通して  
連携を具体化

地域  
事業者

地域連携  
DMO

民間  
事業者



地域マイスター

地元の方にも参加いただきながら利用者を案内する仕組みを導入し、各拠点でお出迎え。またマイスターを育てる環境も合わせて整備。



地域情報を踏まえたルート設定

場所・季節・時間帯・直近の状況など、地域に入りこんでいるからこそわかる赤城山の楽しみ方を落とし込んだプランを具体的にご提案。



レンタルを伴う体験サービスなど

手ぶらで訪れても赤城山を満喫いただけるよう、レンタル品の貸し出しやアクティビティ提供を用意し、滞在方法を充実化。

エリアへ  
実装



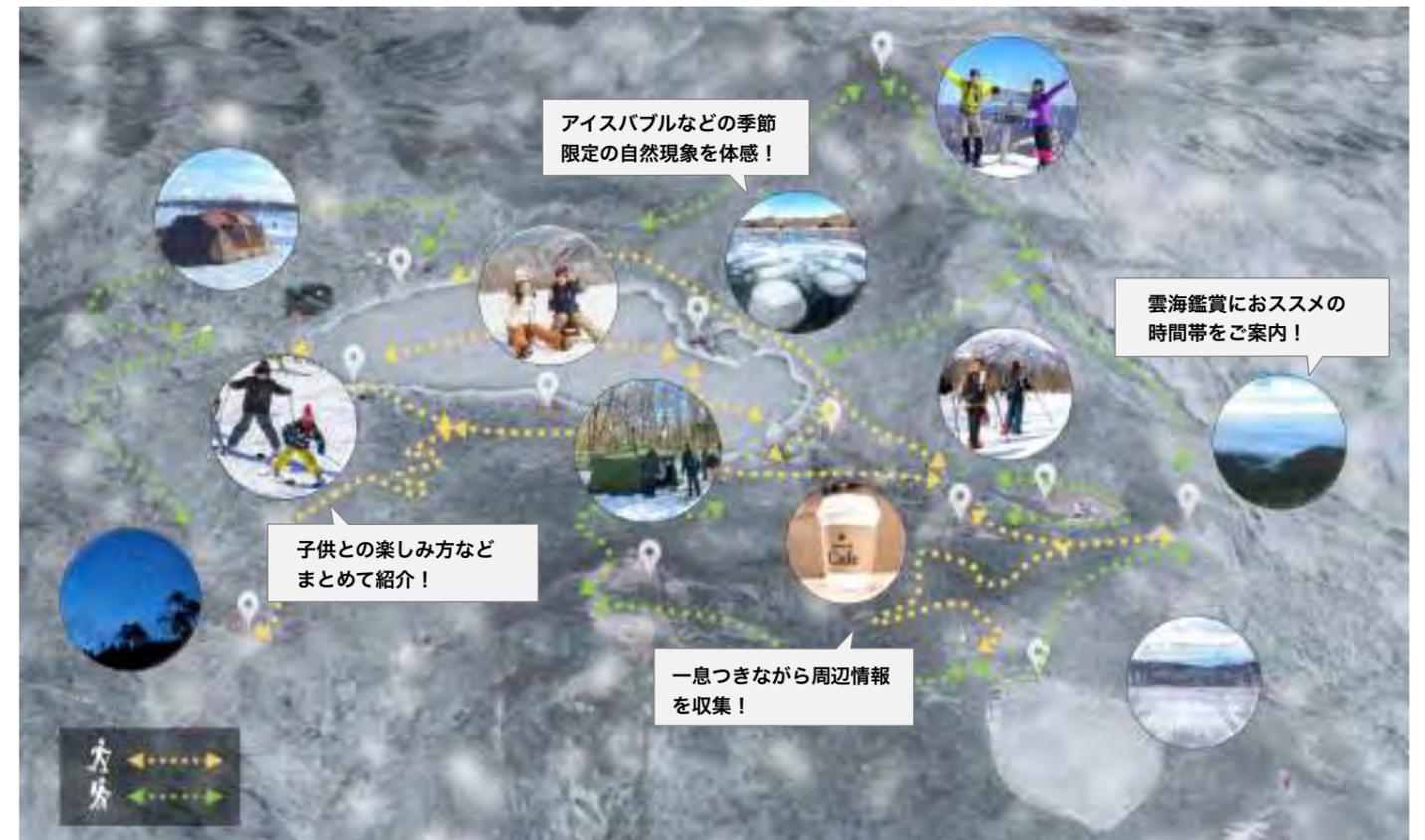
## 地域連携 ②

### エリアでの周遊を促す体験プラットフォーム

# 地元だからこそわかる 滞在方法のご案内。

ビジターセンターをはじめとした各拠点にて地域のマイスターを配置し、その時期の旬に合わせて場所・ルート・時間帯・持ち物まで、おすすめの滞在方法をご提案。滞在手段も、レンタルサービスやアクティビティメニューもご用意することでバリエーションをもってご用意。現地にいるからこそわかる情報をもとに、利用者に合わせた赤城山の楽しみ方を伝え、エリアでの周遊や消費を促していく。

#### ■ ルートマップイメージ (ホワイトシーズン)



#### ■ プランパッケージイメージ

覚満淵～大沼を巡るスノートレッキングプラン

体験レンタルパック + 特製ランチセット - 温泉入浴券 すべてセットで

価格 | 1名様 ¥7,000 | 2名様 ¥12,000

#### ■ タイムテーブルイメージ



画像提供：前橋コンベンション協会

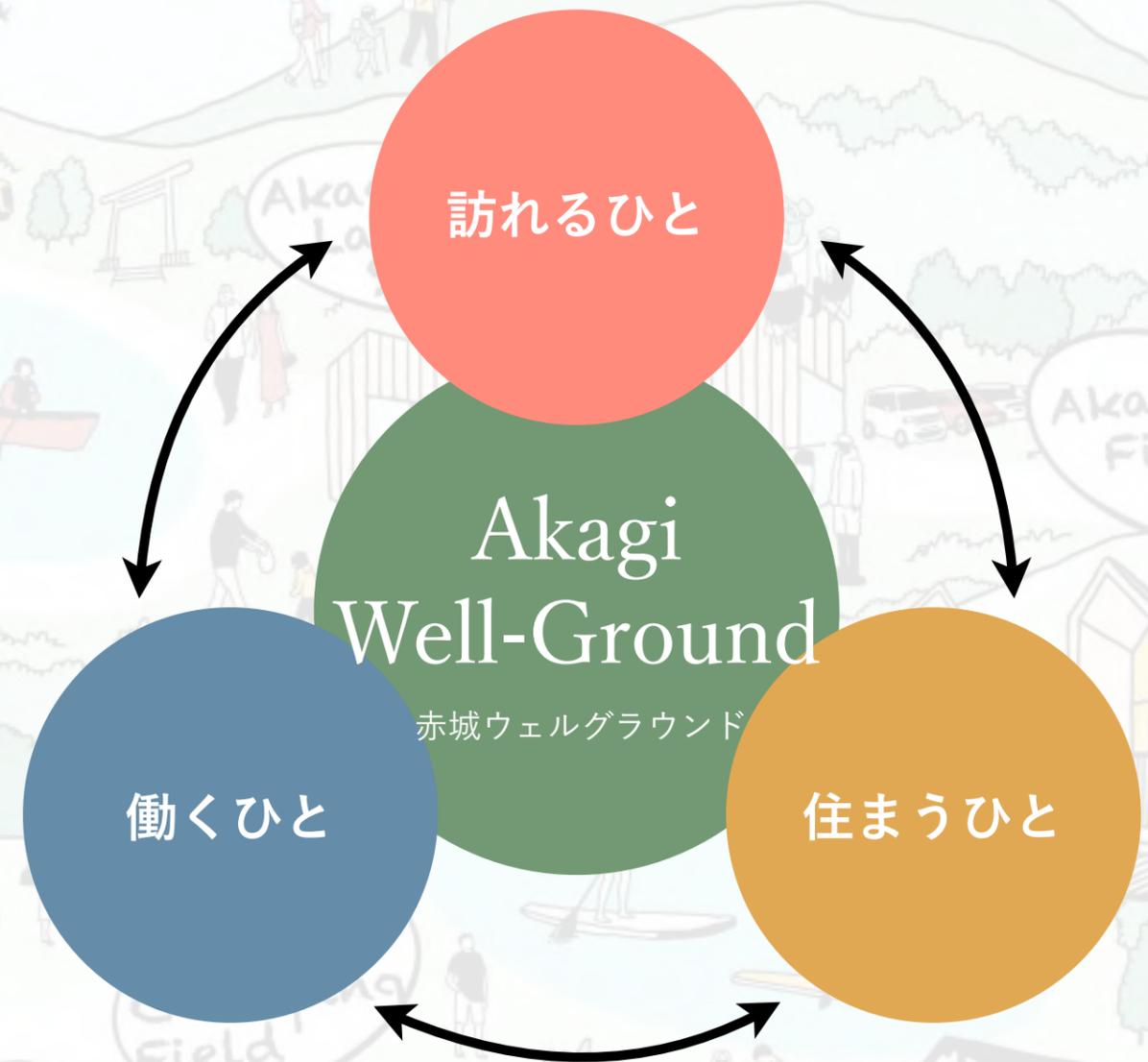
### 地域連携 ③

# 三方善しを図る、持続可能なコミュニティを創造。

すでに取り組みられている官民連携プロジェクトや地域DMO・民間プレイヤーと連携し、観光ツーリズムの取り組みにとどまらない住まうひと、働くひと、訪れるひとびとの持続的交流循環促進プラットフォームを構築。単なる「観光」狙いでは実現しにくかった、官民共創のモデルケースを実現します。



群馬県庁32階官民共創スペース「NETSUGEN」地域課題解決プログラムより



「市民に善し、社会に善し、産業振興に善し」  
ネイバーフッドが育まれる“三方善し”

## データベース連携

# スマート文化経済圏の創造。

オプトイン率増  
(市民参加)

ID連携による  
地域データの  
完全可視化

属性に応じた  
観光シナリオの  
提案が可能に

地域と市民がともにデータを育み、価値還元を生み出す拡張型プラットフォーム。

「個人のライフスタイル」と、それを取り巻く「社会」をむすび、

テクノロジーとアイデアで価値ある「情報」に磨きあげ、社会に届けることで新しい喜びを提案します。

### 来訪者と地域をつなぐデジタルチャネル

赤城エリア  
活用支援  
アプリ

都市OS(まえばしID)と紐づける専用アプリを開発し、データに基づいた滞在体験のレコメンドも可能に

「赤城ウェルグラウンド」  
連動スマートアプリ  
『Akagi Walker™』

国内・海外問わず  
アクセス



生活者カレンダー

年間を通じて発信する



生活者データ

まえばしID

購買データ

決済データ

AGE 年齢データ

食データ

職業データ

活動時間データ

処方箋データ

移動データ

足跡データ

居住データ

車保有データ

行政・地域データ  
ex. マイナンバー、住民票

そのほかID連携  
Apple, amazon, T-ID etc...

アプリ機能

混雑コントロール  
混雑状況案内

顔認証チェックイン  
スマート決済

空調管理  
体温等の健康管理

個人の体調に合わせた  
ワークアウトメニュー

WEB予約  
スマートパーキング

個人履歴に基づいた  
おすすめイベント

Akagi Well-Ground × 地域文脈を活かしたマーケティングによる活性化

創造スキーム

# 赤城山エリア循環型自律生活圏構想。

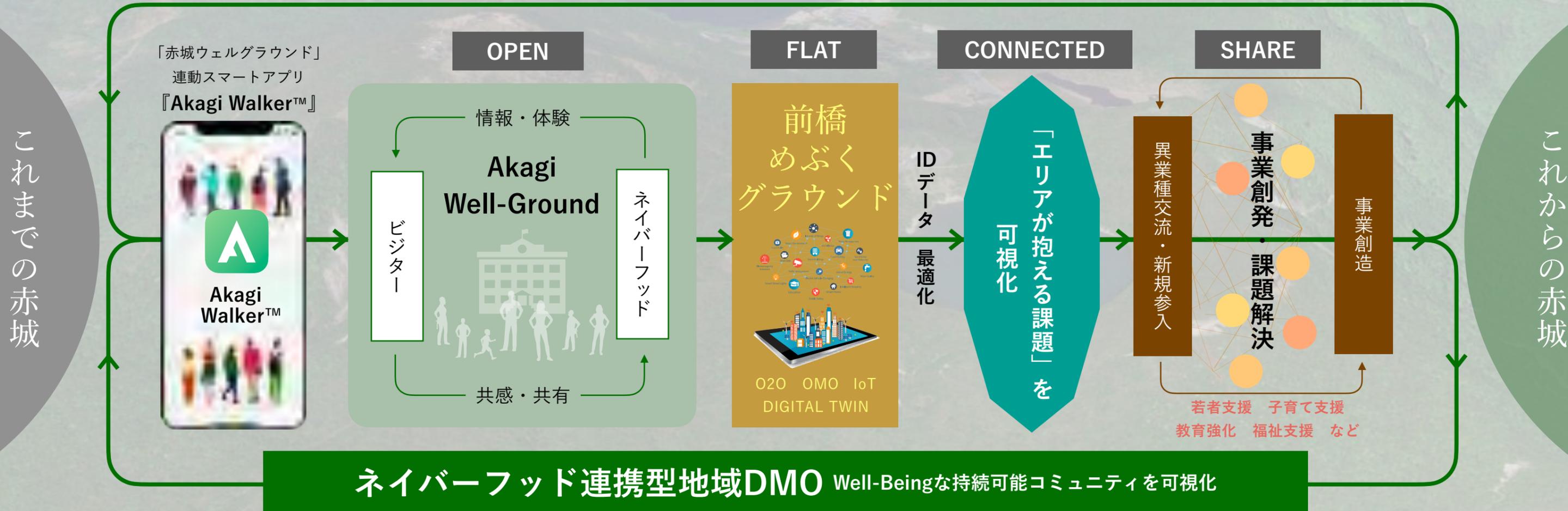
交流から関係へ。地域の知見を活かしたコミュニティ醸成。

人的潜在ポテンシャルを引き出し、付加価値のある循環が地域の活性化と新たな雇用や就労機会を生み出していきます。

自然と人とが有機的に交わり変化し続けることで既存環境を「なくてはならない場所」として循環型自律経済基盤化。



## リアル行動に基づいたデータフィードバック・Well-Beingな持続可能コミュニティを可視化



## 総括

# 赤城山・大沼大自然エリアを ミライ史産に。

ミライ史産を次の世代に残すため、  
持続性、拡張性を想定した「Akagi Well-Ground」構想。

「前橋めぶくグラウンド構想」と連携を果たし、  
前橋市街、敷島公園、赤城山の3エリアの  
滞在性および回遊性を高め、  
生涯学び、育ち、新たな価値がめぶく街として  
日本レジリエンスのモデルエリアと受け継がれいく。  
未来につながるプロジェクトであり、  
群馬県全体の関係人口の向上を図るための  
グラウンドデザインとなる企画となります。



別添資料

検討：持続的な経済循環

# 循環に繋がる収支想定。

エリア内での循環を高める整備を実現するため、  
より効果を高める収支状態を目標とする。  
民間参入の余地を作り出し、  
交流人口増から経済波及効果への循環を生み出す。

■ 想定交流人口増と経済波及効果の算出（群馬県全体）



日帰り客	6.5万人	→	<b>2.7 億円</b>
宿泊客	3.5万人	→	<b>8.1 億円</b> (宿泊費含)

参考：群馬県観光動態実績値

日帰り客消費額平均：4,109円/人

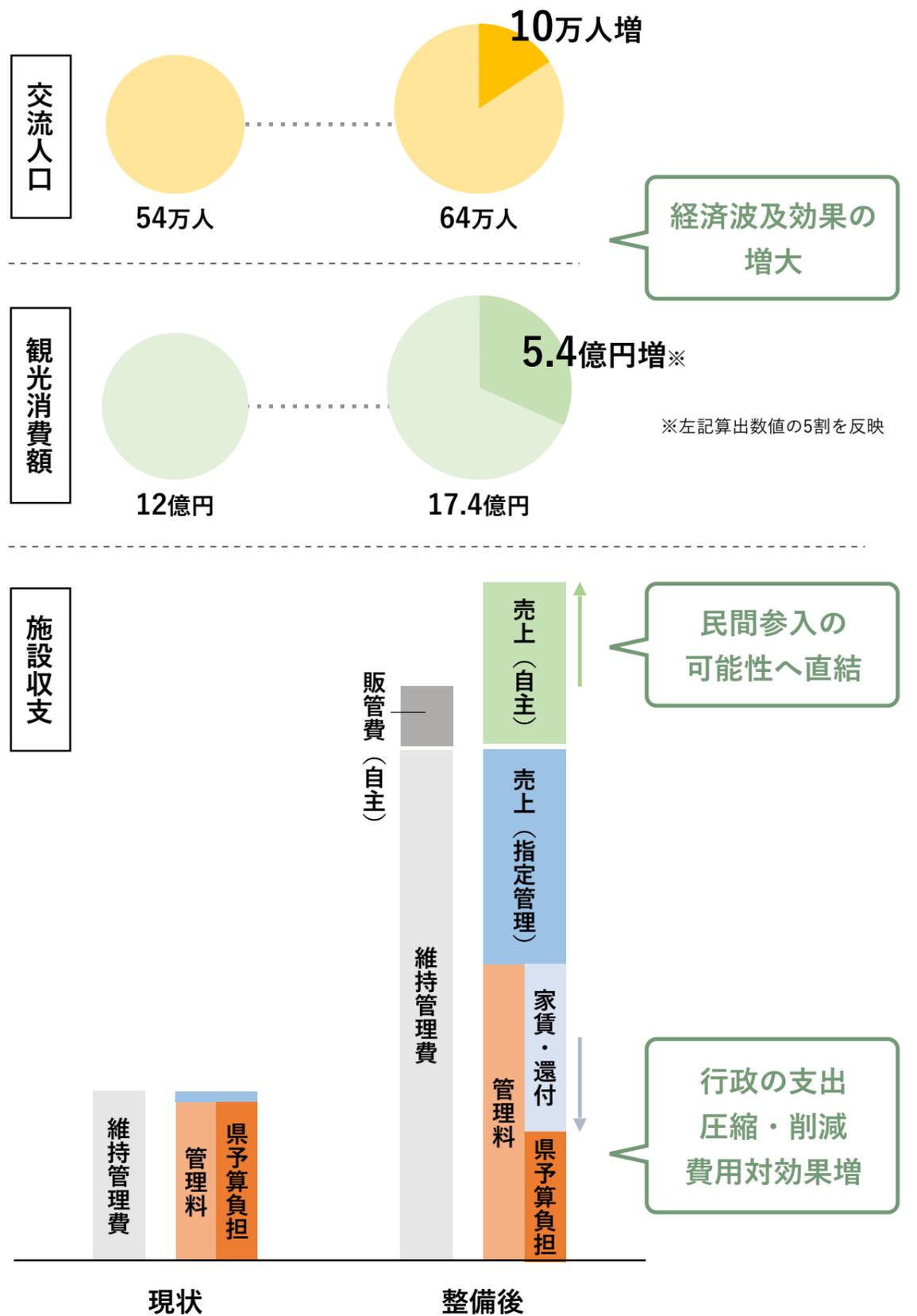
宿泊客消費額平均：23,202円/人

※「令和元年度群馬県観光動態調査」より

計 **10.8 億円**

※宿泊費含

望ましい収支計画イメージ



現状交流人口・観光消費額数値：2019年度・2020年度観光庁 赤城自然塾DMO形成・確立計画より

# 参考資料：赤城公園の機能系統図整理

調査内容：機能系統図作成ワークショップ

## 赤城公園の機能系統図

## 求められる機能

